

日韓文化交流基金 NEWS



No. 81 2017.3.26

contents

- 1-3 青少年交流事業
韓国・梅香女子情報高校作品 文部科学大臣賞受賞！
韓国代表3作品の紹介
アジア国際子ども映画祭参加訪日団の日程紹介
- 4-5 基金講演会
あなたは本当に韓国を知ってる!? 日韓の違いと近似性
NPO法人日韓交流祭り協会 事務局長 権 鎔大
- 6-7 フェロー研究紹介
韓国史教科書と歴史家—1945～1954年の
状況を中心に
成均館大学校 上山 由里香
- 8 助成事業
高麗躍(こうらいおどり)を210年ぶりに復活
佐賀県有田町第三区区长 吉島 幹夫
- 9 助成事業
困難を乗り越え、交流は次のステージへ
熊本県立天草高等学校主幹教諭 釜賀 健司
- 10-11 日韓文化交流基金事業報告
2016 年度第 3 四半期実施事業紹介
- 12 日韓文化交流基金賛助会員制度のご案内
新事務所移転のご案内

韓国 梅香女子情報高等学校 作品 文部科学大臣賞受賞!

2016年11月26日に北見市民会館(北海道北見市)にて開催された第10回アジア国際子ども映画祭に合わせて、韓国の高校生9名が6泊7日の日程で訪日しました。一行は、映画祭関連イベントの参加の他、東京と埼玉でそれぞれ文化体験、学校訪問を行いました。

また、日程中に行われた映画祭本選大会では国内外から応募された612作品の中から、梅香女子情報高等学校の学生が制作した「無関心」が文部科学大臣賞を受賞しました。

今年度の映画祭のテーマは「私の嫌いなこと」。本選にはアジア15の国と地域及び国内ブロックからの参加者が一同に会し、受賞作品は1500人の観客の前で上映されました。韓国からは3作品が本選にエントリーし、それぞれ代表者3名ずつが本選大会に参加しました。受賞作の「無関心」はストップモーションというアニメーションの技法を使った作品で、紙にペンで1枚ずつ絵を描いては動かすという作業を繰り返して1つの映像が完成します。制作は夏休み期間にストーリーを考えるとところから始まり、その後は授業の合間を縫って、撮影・編集を行いました。受賞した学生は「ほかのチームがとても上手な映画を作っており、まさか自分たちが賞を取れると思っていなかったのが、少し戸惑いましたが、とても嬉しいです」と受賞の感想を話してくれました。



歌手の伍代夏子さんから賞状とトロフィーを受け取る梅香女子情報高等学校の学生

エントリー作品概要

梅香女子情報高等学校「無関心」



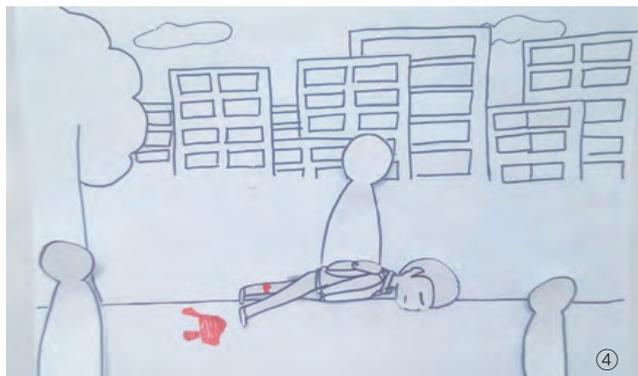
①



②



③



④



⑤

ある家庭で子供が生まれ、無関心の中で育てられる日々が続く。親の愛情を乞う子供は、100点満点のテスト用紙を親に見せるなど様々な努力をするが、親はこうした努力に見向きもしない。子供は、ある日不幸にも事故に遭い、死んでしまう。死んだ子供のポケットからは、「無関心が死ぬより嫌だ」と書かれた紙が見つかる。現代社会の他人に対する無関心を憂う作品。

GOIN_IN 韓国アニメーション高等学校



青少年をとりまく社会(大人・学校)への問題意識を表現した作品。本作品は、今回のテーマである「私が嫌いなこと」を、ある時には独裁者のような存在になり得る学校であるとし、これに反抗する学生の気持ちについて改めて考えさせる構成となっている。

虚飾(Pretense) 華城高等学校



本作品では、鉛筆を口に挟んで笑うシーンが複数回登場し、「虚飾」が象徴的に表現されている。新しい学校に転校してきた主人公は、慣れない雰囲気の中で友達の輪に入ろうと努力するが、クラスメートはもちろん、教師も虚飾に満ちた行動で主人公に接し、苦しめる。信頼できる人間関係を築きにくく、虚飾に満ちた学校を批判的に捉え、これを表現した作品。

訪日団の日程

11/24(木) 入国(新千歳空港)、北見市へ移動、アジア国際子ども映画祭ウェルカムセレモニー

11/25(金) 【文化体験】カーリング、映画祭作品視聴、交流会



テレビでしか見たことなかったカーリングに挑戦!

英語を使って日本やアジア各国・地域の学生と交流



11/26(土) アジア国際子ども映画祭本選、アフターパーティー(北見名物極寒の屋外での焼肉パーティー)



各国の伝統衣装に身を包み本選に参加。表彰作品の発表前で緊張しながらも笑顔でパチリ。

11/27(日) 【視察】オホーツク流氷館、東京へ移動

マイナス15℃の流氷体感テラスで濡れたタオルを凍らせる「しばれ実験」



11/28(月) 【文化体験】着物着付け、【視察】東京スカイツリー、ショッピングセンター、お台場エリア

11/29(火) 【学校訪問】埼玉県立芸術総合高等学校、歓送夕食会



「しりとりムービー」の制作では、単語に合わせてみんなでハイポーズ!

仲良くなった映像科の学生と一緒に記念撮影



大竹洋子評議員(元東京国際女性映画祭ディレクター)も交えて歓送夕食会が行われました。世代や国を越えて、女性映画人として熱く語り合いました。

11/30(水) 帰国(羽田空港)

学校交流の感想

梅香女子情報高等学校 2年 李 美智 (イ・ミジ)



芸術総合高校の映像科の学生と一緒に行った、「しりとりムービー」の制作では、「どんな単語が表現しやすいか」と一緒に悩みながらも作ることが出来、楽しく過ごせました。

学校訪問の最後に、私は手作りの名刺を、芸術総合高校の友達に韓国語がいっぱい書かれた手紙を、お互いに交換しました。日本語がよくわからない私のために韓国語で手紙を書いてくれたことがとてもありがたく、感動も2倍でした。

訪問前は、外交的問題によって韓国の学生のことを好意的に思っていないと考えていましたが、実際に会ってみて、そのように考えていた自分が恥ずかしいくらいとても仲良くしてくれました。学校交流を機に私の日本に対する認識も良い方向に変わりました。

埼玉県立芸術総合高等学校 2年 関口 詩乃 (せきぐち・しの)



最初は言語や環境の違う人たちと一緒に映像制作が出来るのか不安だったのですが、制作していくうちにだんだん打ち解けあって楽しく最後までやりきることが出来ました。私は海外の人とここまで関わりあうことが初めてでしたが、言語が分からなくても通じ合うことは難しくないのだなと感じました。作品も面白いものが出来たと思います。また、お互いの作品を鑑賞した時、韓国の生徒のみなさんが言ってくれた感想や生徒さんが制作した作品はすべて今後に活かしていけると思いました。今までは日本のことしか考えていなかったけれど、もっと広い目で見なければならぬと考え直しました。

あなたは本当の韓国を知ってる!? 日韓の違いと近似性

NPO 法人日韓交流祭り協会事務局長

権 裕大

今年度 2 回目となる基金講演会は 11 月 28 日に権裕大さん (NPO 法人日韓交流祭り協会事務局長) を講師に迎え、お話を伺いました。日本と韓国のはざままで生きてきたからこそ見える日本と韓国のこと、これからの日韓交流において必要なことについてお話しいただき、考える機会になりました。講演の内容をいくつかのキーワードごとにまとめてご紹介します。

1.市民と政治

11 月下旬現在、韓国の政治状況を見てみると、朴槿恵大統領の弾劾を求めるデモが全国で行われており、一向にやむ気配がありません。このような状況から旬な話題として韓国における市民と政治について触れてみたいと思います。

このような大規模な市民参加デモは今に始まったことではありません。

現代史 (戦後) を見ても、60 年代から李承晩政権が市民や学生を中心にしたデモにより退陣させられ、80 年代には、長く続いた軍事政権から同じく市民、学生たちのデモと訴えにより、民主化が成し遂げられました。そして、最近では市民たちによる「ロウソクデモ」というように、市民たちの力によって政治を動かしてきました。

ではなぜ韓国人がこんなに政治に関心があるかということ、その地政学的な位置が大きく影響しています。海に守られた日本に比べ、韓国は大陸と島 (日本) の懸け橋という特徴を持った半島国家という性格上、大陸や海洋から外敵に攻められることが当たり前のよう存在していました。その為、国を外敵から守る強力なリーダーシップを必要としその体制 (中央集権制) が整えられました。指導者とその責任を果たしているのかどうか常に関心を持つ事イコール政治への関心につながるのです。

指導者に権力を集中させることは一歩間違えると民衆への弾圧につながるので政治への関心とともに抵抗権を持つとします。

韓国には憲法よりも上位となり、優先される法律でない法律が存在します。一つ目が「ごね得」法です。これは何か問題があっても、抵抗すれば (ごねれば) 何とかなるという考え方があります。一般的に韓国社会では、国民は力のあるものによって虐げられてきた歴史もあり、抵抗すれば何とかなるというものです。



講師の権裕大さん

「ごね得」法のさらに上位にあるのが、「国民情緒」法です。ある事柄が、いくら憲法や法的に合致していたとしても、国民情緒にそぐわない内容であれば、法よりも情緒が優るといえるのです。端的な例が日本大使館前に設置されている慰安婦像の問題です。法的にみると像の設置は道路法違反なのですが、国民情緒においては像の道路法違反よりもさらに大きな問題があるため、容易に撤去できないのです。

2.人との付き合い方①「우리(ウリ)」に表れる韓国人の距離感

韓国人の人との付き合いを通してよく聞く言葉で「우리(ウリ)」という言葉があります。日本語では、「私たち、私たちの」と訳されるのですが、日本語で使う場合とは少し意味が違って使われます。

すでに韓国人の人たちとの交流において経験された方も多いかと思いますが、韓国では初対面の人に会ったときに、非常に個人的な事柄まで根掘り葉掘り質問されたということがあったのではないのでしょうか。これは、初対面の人と接した際に、相手の情報をいろいろと聞きだし、この相手は自分にとって、味方が敵か判断するためのものなのです。その際、もし相手が味方と判断できれば、「ウリ」の範疇に入る人として、最大限の配慮をもって接するようになるのです。一方、「ウリ」には入らない敵方であると判断した場合には、例えば道すがらお互いの肩がぶつかっても、素知らぬ顔で通り過ぎて行ってしまうようになるのです。

この「ウリ」は、友人同士というような親しい間柄でも存在しますが、日韓においては、距離感の微妙な違いを表すことにもなります。



政治から愛情表現まで様々な事例をあげて話ってくださいました。

韓国人留学生とルームシェアをしている日本人学生から聞いた話ですが、韓国の学生は、日本人学生の持ち物であるにも構わず、自分の物のように使うことがあり、困っているという内容です。韓国では、「ウリ」の範疇に入る友人同士であれば気兼ねすることなく、お互いのものを貸し借りするのです。このような人との距離感覚においても違いがあります。

特に日韓間では、西洋の人とは違って外見などが似ており、文化、習慣も近いので自分の方式で行動したり話したりすると微妙な違いに気付かず行き違いや誤解が生じます。アメリカ人のように最初から明らかに違うなら割り切って考えて接するのですが、顔かたちが似ているとつい自分の物差しで考え行動するので、折角の行為があだになる事が日韓の溝を深めてしまうのです。『似てるけど違うんだという事を知ること』が日韓にとって一番大切なことではないでしょうか。

3.人との付き合い方② 愛情表現などの違いについて

ヨン様登場以来、日本では韓流ブームが続いて久しいですが、このことを通して日韓の違いが分かります。愛情表現について日韓の違いこそが、日本人たちを魅了しているのではないかと言う事です。

ご存知の通り、韓国では、愛情はもちろん、感情を表す際に激しく表現します。派手に、はっきりと表現するのです。一見すると荒っぽさがあるのですが、感情を率直に表現するのです。一方、日本は、相手を傷つけないためにハッキリ表現しないのが美德とされています。、韓国のように激しく感情、愛情を表現することをあまりしないので愛情を受ける方はもどかしさやもの足りなさを感じ、韓国の男性にあるいは韓国ドラマに軍配を上げたのではないのでしょうか。このような感情表現の違いから、韓国の映画やドラマを見た日本人たちの目に、韓国の激しさが新鮮に映り、韓流ブームへとつながったのではないのでしょうか。

4.言葉によって生きる韓国人

次に韓国の人たちと言葉について、いくつかの事例を挙げて話してみたいと思います。まずは、儒教が韓国の言語表現に与えた影響についてです。儒教では話をして相手を納得させる、論理で勝ち抜くことが大切とされていて、自分の主張をしなくては行けなくて、主張することで生きるチャンスが生まれ、自分が磨かれるとされています。そういったこともあり、人との接し方や表情も日本とは異なります。

次に漢字表現についてです。「是非」という言葉がありますが、日本では主に「良くも悪くもそうでなくても」、「是非を問わない」というような意味でつかわれますが、韓国では「良し悪しをはっきりさせよう」といった場面で使います。良し悪しをはっきりするためにはよいと主張する論理を考え出さなければならず、また

相手を打ち負かすレトリックも開発しなければなりません。このような点から韓国人は理屈っぽくてうるさいとみられることもあります。

次に「愛人」ですが、日本では不適切な男女間の関係において使われますが、韓国では、日本語でいう「恋人」の意味になります。同じ漢字表記を使っているながらも、使われ方や意味においては日韓での微妙な違いを見つけることができます。

言葉以外に行動様式においても、日韓における違いがあります。

日本では、一つの場所に留まることや、一つの事を守り続けることが評価されます。たとえば、創業から300年、400年と伝統を守り続ける老舗が評価されますが、韓国では、いくら流行った店であっても、子や孫へと代々受け継いでいくと言う事はしません。韓国では、新しさを求める気持ちや上昇志向が強く、どれほど繁盛している店などであっても、店を継ぐよりは、良い大学で学び、政治家やリーダーといった上位を目指す傾向が強いのです。いわゆる地政学からくる強い中央集権志向と与えられたところで最善を尽くす(一所懸命)地方分権的な名残を残す日本との違いかもしれません。

5.違いを認識することの大切さ

今回はいくつかの事例を挙げて、日韓の違いと近似性について述べましたが、大切なことは、それぞれの違いを認識することです。そして歴史や風土が異なる日韓両国が持つ長所、短所を理解し併せ持つことができれば、日韓両国はアジアのみならず、世界において重要な役割を果たしていけるのではないかと思います。



日韓関係について関心を持ち参加した高校生たちと懇談される権鎔大さん

PROFILE

権 鎔大 (ゴンヨンデ)

ソウル大学校歴史学科卒業、同大新聞大学院修了。現在、NPO 法人日韓交流祭り協会理事兼事務局長。芝パーク総合法律事務所顧問、アジアナアカデミー講師、元アジアナ航空日本地域本部長、中国本部長を歴任。近著に「あなたは本当に韓国を知ってる!」他にも新聞寄稿・講演多数。



韓国史教科書と歴史家 - 1945～1954年の状況を中心に

成均館大学校大学院 文学博士

上山 由里香

フェロー研究紹介のページでは、各分野の日本研究、韓国研究をされている若手研究者による様々な見解や研究結果をご紹介します。今号では、2015年度に訪韓フェローとして研究された上山由里香氏の研究内容についてご紹介します。

1. 研究概要

私は韓国の成均館大学校で2009年より韓国の歴史教育に関わる研究をおこなってきました。具体的には、近現代の韓国史教育（実践）及び韓国史研究の変遷、韓国史教科書の実態把握、韓国史教育や研究に従事した歴史家らについて知見を深めてきました。大きな枠組み（制度・政策的側面）から韓国の歴史教育の実態を把握しようという取り組みはすでに多く実証されていましたが、さらに発展させてその当時生きた人々が実際にどのような状況で歴史教育との接点を持っていたのかという実態にまで、まだ詳細に把握できていないことがわかりました。そのため、私は歴史教育に関わる細部の要素に注目し、そこから当時の歴史教育の実態把握に努めました。その際、主たる要素として扱った対象が、韓国史教科書とその編纂に携わった歴史家です。ここでは特に1945年から1954年までの状況に関して紹介したいと思います。

2. 韓国史教育建設過程

周知の通り、朝鮮半島は1945年8月15日に日本の植民地支配から解放されました。植民地期、朝鮮半島ではいわゆる「国史」を教育現場で体系的に学ぶという制度は整備されていませんでした。したがって、朝鮮半島で当時の朝鮮の人々が自らの民族や文化の伝統、そしてその歴史を学校教育の中で学び教えることは、極めて制限的にしか実施することができませんでした。一刻も早く植民地支配が刻まれた教育から脱皮し、「国史」＝韓国史教育を体系的に建設していくことが至急の課題だったことは言うまでもありません。

そのため、教育基盤を建設していく活動にはすぐに着手されたものの、その過程は容易なものではありませんでした。韓国史教育空間の建設に限ったことではなく、そもそも教育全般を十分に運営できるだけの環境や人材が絶対的に不十分していたのです。つまり、教育制度、学校運営、教員養成、教材開発など教育空間を運営するうえで必要なすべての要素に同時に着手しなければならないという事態に直面していました。

このように、解放直後から教育環境を整備するための施策は多方面で展開されたものの、韓国における教育実践の制度的根幹とも言うべき「教育課程（日本では学習指導要領に相当するもの）」が整ったのは、解放から約9年近くが経過した1954年のことです。その間、朝鮮半島では南北がアメリカとソ連による分割占領の時期を経て、1948年には南北でふたつの国家が樹立し、1950年には朝鮮戦争が勃発するなど、その都度教

育政策もその都度影響を受けたため、第1次教育課程施行以前は韓国史教育も緊急措置、臨時対策として機能せざるを得ませんでした。

3. 韓国史教科書の実態

そのような状況のなか、韓国史教育建設において最初に着手されたものが韓国史教科書の編纂作業でした。1945年9月末には小学校が開校され始めたものの、「教科書なき学校」ともいえる状態での開校だったのです。特に植民地時期の「国史」教科書は、日本史を中心に描かれていたため、事実韓国史教科書が存在しませんでした。そのため、喫緊の課題として韓国史教科書の編纂事業が行われたわけです。

米軍政庁から委託を受けるかたちで植民地時期の1934年に韓国の歴史・言語・文化などを研究するために組織された震檀学会がその役割を担うことになりました。韓国史教科書は、震檀学会所属の歴史家金庠基（キム・サンギ）、李丙燾（イ・ビョンド）が執筆を担当し、1946年5月に臨時教材として刊行されたものが震檀学会編『（中等用）国史教本』（軍政庁文教部）です。

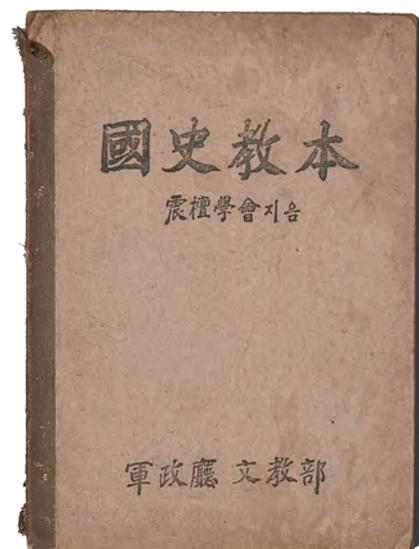


写真 1:
震檀学会編『（中等用）国史教本』（軍政庁文教部、1946）出典：ハンブル博物館

しかし実際には上記のような臨時教材だけでは供給が間に合わなかったという事情もあり、韓国史教科書不足を補うために、緊急措置として民間の出版社や歴史家らの努力により多くの書籍が韓国史教科書として発行されました。その当時発行された

韓国史教科書の性格は大きく2種類に分けることができます。ひとつが1945年以前に出版されたものを教科書用に再編集したものであり、もうひとつが新たに執筆されたものです。解放直後から1947年頃まではこのような韓国史教科書が多く発行され使用していたことは明確ではあるものの、実際の発行、普及、使用状況に関して正確には把握できていません。当時の状況を把握できるデータや教科書自体が現在までしっかりと保存されていないなど、現実的に実態把握が困難であるという点も関係しています。



写真2:
金聖七著『朝鮮歴史』(朝鮮金融総合連合会、1946) 出典:韓国・国立民族博物館



写真3:
崔南善著『中等国史』(東明社、1947) 出典:ハングル博物館

※これらの教科書は臨時的韓国史教科書として編纂され、実際に使用されていたものです。

1947年頃までは上記のような状況のなかで、韓国史教科書が発行されていきましたが、1947年以降「国民学校社会生活科教授要目」(1947年1月)、「中等用社会生活科教授要目」(1948年12月)が発表されたことにより、この教授要目に沿った教科書の編纂が行われるようになりました。その執筆基準に沿って韓国史教科書も叙述内容が構成されていましたが、執筆者によってその内容構成には大きな違いが見られます。それは執筆基準はあるものの、その拘束力はそれほど厳格なものでなかったと言えるのであり、そのため執筆者個人の歴史認識が反映されやすい教科書だったと言えます。

4. 韓国史教科書執筆に携わった歴史家

そのような点を考慮する際、当時の韓国史教科書の特徴として挙げられるのが、その執筆形態です。現在では日本でも韓国でも教科書の執筆は時期ごとに担当執筆者が内容叙述を行っていますが、当時は1人の執筆者＝歴史家による単独執筆で教科書が編纂されていました。前述した法的拘束力が弱かったという点や、単独執筆により内容叙述が行われていたという点を考慮すると、当時の韓国史教科書が教科書ごとに多様に内容が構成されていたと言えます。

教科書叙述は歴史家によって行われます。つまり、1945年から1954年までの韓国史教育の実像をより鮮明に把握するためには、制度的な側面だけでなく、韓国史教科書の執筆に携わった歴史家個人にも焦点を当てて検討することが必須と考えています。そのため、私は現在、主に韓国史教科書の執筆に携わった歴史家の生涯の知的経験を追体験し分析する作業を行っています。彼らの歴史理解がどのように構成されたのか、どのような経験や環境、人物に影響を受けたのかなどを検討することで、韓国史教科書の執筆の際に何がどのように反映されたのか把握することが可能です。そしてこのような作業を通してより具体的に当時の韓国史教育の実態把握に努めることができると考えています。

※本文に掲載した写真は、Korea Open Government License第1類型(出典表示)により一般にその利用が開放されているものであり、EMuseumホームページ(<http://www.emuseum.go.kr/main>)より無料でダウンロードしたものを使用しています。出典として明記した機関名は、各資料が保存・公開されている機関名です。

PROFILE

上山 由里香 (うえやま ゆりか)

1980年、福井県出身。成均館大学校東アジア学科博士課程修了(文学博士)。専門は韓国の歴史教育に関するもの。共同編著に『新しい東アジアの近現代史—上・下巻』(日本評論社、2012)などがある。



高麗躍を210年ぶりに復活

佐賀県有田町第三区区長

吉島 幹夫

高麗躍(こうらいおどり)。江戸時代の有田皿山代官旧記覚書(1746～1831年)に度々、その記述がみられます。

最後の記述は1806年でした。その内容は、朝鮮陶工の子孫たちが時の皿山代官に「秋季大祭で、先祖から伝わる高麗躍を踊らせてほしい」と願い出る記述です。歴代の皿山代官はこれまで「踊りの練習を口実に仕事を怠けるから」と、この願い出を悉く却下しています。

有田焼創業400年となる2016年の秋季大祭の当番町を務める有田町第三区では、この記念行事として「有田焼窯元の後継者たちが舞う高麗躍を復活させたい」と考えました。

さて、高麗躍がどのような踊りだったのか、この古文書ではわかりません。私たちは、文禄・慶長の頃の頃に朝鮮半島に広まったといわれる「農楽」ではなかったか、と考え、初代李参平(りさんぺい)公の故郷である忠清南道公州市をお願いしたところ、農楽演奏者を派遣していただくことになりました。

まず5月の有田陶器市で、公州市の農楽師に演奏していただきました。私たちは翌月に地区内の青年を公募し、8月に農楽師匠たちが再来日して合同練習を始めました。通訳は有田農業大学校の留学生にお願いしました。農楽師の帰国後は、有田の練習生は毎週に集まり練習します。その音量は半端ではなく、練習会場は市街地から離れた山中の保育園舎を借りて練習を重ねました。衣装は、往時の朝鮮陶工の気持ちに近づけるようにと、白い作務衣に朝鮮神伝の青・赤・緑の3色帯に、楽器は農楽師匠から譲りうけました。



夏の合同練習 / 白川公民館で

有田の秋季大祭は、伝統的な「踊りぐんち」です。当番町は踊り組を組織して、2か月程の練習を重ね、祭当日に道踊り・所望踊りで町内を回ります。家々では料理や酒を準備して踊り隊を接待します。この祭形態は1880年頃から、有田皿山で続けられてきました。

秋季大祭の当日、農楽師匠が再来日して高麗躍の復活が実現しました。これまでの日本風の踊り連とは異なる、異国文化の音曲と舞が加わりました。沿道の町民や観光客も高麗躍に関心をもって見ていただきました。

秋季大祭の最終日、高麗躍の復活話を耳にされた唐津焼陶芸家で民俗文化研究家の中里紀元(なかざと のりもと)さんが駆けつけ、この踊り隊に同行されました。祭礼最後の公演を終え、舞台袖で抱き合う日韓の踊り手の輪に駆け寄った中里翁は、涙ぐみながら「君たちは日本陶磁史に新しい歴史を刻んでくれた、ありがとう」と、今回の高麗躍復活をたたえていただきました。



有田陶器市の街なかで公演 / 札の辻界限で

私は、有田の練習生に韓国本場の農楽舞を体験させ、将来の交流の基礎を築きたい、と考え、祭礼後の忠南公州市へのお礼旅に練習生を誘いました。しかし、その時期に農楽祭は行われていません。公州市の関係者と農楽隊は、その場を作ってくれました。それも同市にある陶工李参平公記念碑の前で。

集まった大勢の観客たちは、韓国農楽隊に交じって演奏する有田の練習生を、少し驚いた目で見てくれました。終了後に私は、公州市の関係者たちから感無量の握手攻め、そして中に「将来に地域交流を」という声までもかけてもらいました。



本場農楽を体験後 / 公州市鶴峰里の李公記念碑前で

PROFILE

吉島 幹夫 (よしじま みきお)

1953年生まれ。佐賀県立武雄高校卒業後、有田町役場に奉職し、38年間勤務して小説家を目指し中途退職。著書に「日本磁器発祥」「九重恋歌」など。2011年から地区自治会長を務める。



困難を乗り越え、交流は次のステージへ!

熊本県立天草高等学校 主幹教諭

釜賀 健司

1. MERS を乗り越えて交流が始まる

「情報氾濫するこの時代、生徒には真実を見極め、風評を乗り越えて生きていてもらいたい。MERS については総合的に判断すると大丈夫。予定どおり訪問しよう」2015 年夏、過熱する報道の中、多角的に情報分析された校長、副校長、教頭のこの判断から、土坪(トピョン)高校との真の交流が始まった。現在も両校はこの思いを大切にしている。

ただ、この交流には前段がある。2014 年秋、JENESYS による韓国高校生訪問団を本校で受け入れた際、団長だった土坪高校の李敬容(イ・ギョンヨン)校長が本校の雰囲気と生徒に大変感激され、姉妹校交流を申し入れられたところにさかのぼる。それから数えれば実質 3 年目となる。

2. 現在の交流の概要

初年度は 7 月に前田校長を団長とし、生徒 10 名で訪韓した。生徒も教師も大歓迎を受けた。現地では大きな学校行事である「Pop Song Contest」に参加し、ダンス披露や、授業交流も行った。パートナーと相互ホームステイを行い「家族ぐるみ」の交流も深まった。

10 月には李敬容校長を団長とする生徒 10 名が本校を訪問。日本の自然や文化に興奮し、パートナーとの感激の再会も果たした。この期間は本校文化祭中であり、土坪高校生もプレゼン、ダンスを発表したほか、吹奏楽部のステージに李敬容校長が登場し、「マイウェイ」を熱唱。拍手喝采であった。憧れのイルカウォッチングや真珠の玉出し体験等も行った。



天草高校文化祭において全校生徒の前で「日韓卓球交流」を披露し、握手する前田校長と、土坪(トピョン)高校 崔渥基(チェ・ジョンギ)教頭

3. 熊本地震を乗り越えて

本年度もさらに交流が深まるように…と募集を始めた矢先の 4 月、熊本地震が発生した。幸い天草地域の被害は少なかったが、土坪高校から真っ先にお見舞いをいただき、大変感激したことを覚えている。熊本空港は大きな被害を受け、熊本～ソウ

ル便も運休。このような状況の中、土坪高校の生徒は天草に来てくれるのだろうか…と心配したが、昨年同様の人数で今年度も交流を行った。航空便を福岡～ソウルに変更し、7 月に馬場副校長を団長とする訪問団が無事訪韓し、交流を深めた。10 月には崔渥基(チェ・ジョンギ)教頭を団長とする土坪高校生の訪問団を受け入れたが、今回はさらに交流のすそ野を広げたいとの思いから、歓迎式典で吹奏楽部のアトラクション演奏を取り入れたり、文化祭展示の一環で「土坪高校交流の部屋」を新設したり、ホームステイパートナー以外の生徒との交流会を実施するなど、限られた時間の中で一般生徒や地域の方々を意識した取組を工夫し、好評を得ることができた。



土坪高校での記念撮影

4. 交流は次のステージへ

姉妹校交流も 3 年目を迎える。新たな試みとしてこれまでの交流に加え、長期休業中に両高校生が一緒に学習し、交流する「研究合宿」を開催し、学術交流の第一歩を踏み出したいと考えている。さらに、2015 年訪問した土坪高校生が再び個人的に来天し、パートナーと再会し、本校も訪問するといううれしい出来事もあった。今年度は本校卒業生が再び訪韓するという。

MERS、熊本地震を乗り越え、絆は深まり、交流も次のステップに進もうとしている。これは日韓文化交流基金をはじめとする様々な皆様方の御支援の賜物でもある。私自身もこの 2 年間、交流事業のお手伝いをする中で素晴らしい出会いやチャレンジの機会を頂いている。これからも交流をとおして日韓の高校生が「玄界灘に立つ虹」となり、世界に飛躍していくことを願っている。

PROFILE

釜賀 健司(かまが けんし)

2015 年に天草高等学校に赴任。現在 2 年目。国際交流の担当主幹として計画立案や連絡調整に携わっている。



日韓文化交流基金事業報告

本号では、2016年度第3四半期（2016年10月1日から12月31日まで）の実施事業を紹介します。

訪日団

団体名	団長	計	男	女	期間	主な訪問先
韓国高校生等 (第1団、第2団)	黄煥南 (ファン・ヨンナム) 泳薫高等学校校長	99	45	54	10/13～10/19	鳥取敬愛高等学校、鳥取県境港市立第一、第二、第三中学校、鳥取県鳥取市、倉吉市、三朝町、島根県松江市、出雲市、安来市
韓国大学生 (第3団)	盧熙眞 (ノ・ヒジン) ソウル神学大学校教授	20	11	9	10/18～10/27	昭和女子大学、関西国際大学、兵庫県南あわじ市
韓国大学生 (第4団)	韓京子 (ハン・キョンジャ) 慶熙大学校副教授	20	9	11	10/18～10/27	昭和女子大学、関西国際大学、愛媛県松山市
韓国高校生等 (第3団、第4団)	金錫昊 (キム・ソクホ) 柳韓工業高等学校教頭 方淑媛 (パン・スクウォン) 虎溪中学校校長	101	36	65	11/10～11/16	高知県立幡多農業高等学校、高知県黒潮町立佐賀中学校、高知県高知市、四万十市、黒潮町
アジア国際子ども映画祭参加	文智圓 (ムン・ジウォン) 華城高等学校教諭	10	0	10	11/24～11/30	埼玉県立芸術総合高等学校、北海道北見市、網走市



高校生等訪日団1団 因州和紙の紙すき体験



高校生等訪日団2団 どじょうすくい踊り体験



高校生等訪日3団 カツオのたたき作り体験



高校生等訪日団4団 とさでん交通棧橋車庫を見学



大学生訪日団3団 淡路島に伝わる人形浄瑠璃を観賞



大学生訪日団4団 関西国際大の学生と意見交換

訪韓団

団体名	団長	計	男	女	期間	主な訪問先
日本大学生 (外交部)	喜多律夫 外務省アジア大洋州局北東アジア課日韓交流室長	130	11	19	9/27 ~ 10/6	韓国外国語大学校、ソウル市内(昌徳宮、ソウル創造経済イノベーションセンターほか)、光州ビエンナーレ、全羅南道順天市、釜山市
日本高校生等 (第3団、第4団)	(第3団) 志摩直樹 兵庫県教育委員会高校教育課副課長 (第4団) 石橋佳之 岐阜県池田町立池田中学校校長	99	37	62	10/2 ~ 10/8	ソウル市内(徳寿宮、仁寺洞、清溪川ほか)、京畿道(水原市、城南市、龍仁市、坡州市ほか)、忠清南道(公州市)、全羅北道(全州市)、慶尚南道(晋州市、泗川市、山清郡)
日本教員 (第2団)	三上全 北海道札幌清田高等学校教諭	17	9	8	11/15 ~ 11/24	セビツ初等学校、城沙中学校、雲山高等学校、慶熙大学校ほか



①大学生訪韓団(外交部) 順天・松廣寺にて境内を見学
②高校生等訪韓団3団 学校訪問で韓国人パートナーと対面



③高校生等訪韓団4団 高校訪問で兵庫県の魅力について発表
④教員訪韓団2団 雲山高校にて先生方と話し合い

韓日文化交流基金訪日団

日韓文化交流基金の韓国内カウンターパートである韓日文化交流基金の李相禹理事長をはじめとする役員及び関係者一行が11月3日から6日までの4日間の日程で来日しました。4日には、日韓文化交流基金の役員・評議員も参加し、鮫島会長主催の歓迎懇談会を開催。両基金の今後の事業の方向性等について意見の交換を行いました。

学術定期刊行物助成

- 『韓国朝鮮の文化と社会 第15号』
(韓国・朝鮮文化研究会編、株式会社風響社)
- 『現代韓国朝鮮研究 第16号』
(現代韓国朝鮮学会編、中西印刷株式会社)

第16回日韓歴史家会議開催

本会議は2016年11月4日(金)から6日(日)の3日間、「現代社会と歴史学」というテーマのもと、都市センターホテル(東京)にて開催されました。初日は田代和生慶應義塾大学名誉教授と金泳鎬韓国学中央研究院碩座教授による記念講演、二日目は「大学での人文学と歴史学」「歴史教育の新しい動きと歴史学」「社会とつながる歴史学」という3つのセッションによる報告と討論、最終日は総合討論が行われ、活発な議論が展開されました。

日本側参加者名簿 (五十音順、敬称略)

飯島渉(青山学院大、医療社会史)、石川亮太(立命館大 アジア経済史)、板垣雄三(東京大 イスラーム学)、大日方純夫(早稲田大 日本近代史)、小田中直樹(東北大学大学院 フランス社会経済史、歴史関連諸科学)、木畑洋一(成城大 国際関係史)、君島和彦(東京学芸大 日本近現代史)、久留島浩(国立歴史民俗博物館 日本近現代史)、後藤真(国立歴史民俗博物館 人情報学、情報歴史学、デジタル・アーカイブ)、田代和生(慶應義塾大 日朝関係史)、成田龍一(日本女子大学 日本近現代史)、松方冬子(東京大 日本近現代史)、宮嶋博史(韓国・成均館大 朝鮮史)、桃木至朗(大阪大学大学院 ベトナム史・東南アジア史・海域アジア史)

韓国側参加者名簿 (カナダラ順、敬称略)

郭次燮(釜山大 西洋思想史、微視文化史、美術史)、金基鳳(ソウル大 歴史理論・ドイツ史)、金伯哲(ソウル大 韓国史)、金榮漢(西江大 西洋近現代史)、金泳鎬(韓国学中央研究院 経済学、経済学史)、金滄(京仁教育大 朝鮮時代史)、金浩東(ソウル大 中央アジア史)、裴京漢(新羅大 中国現代史)、延敏洙(東北亜歴史財団 日本古代史)、吳永贊(梨花女子大 韓国古代史)、柳鎬泰(ソウル大 中国近現代史)、尹大榮(西江大 東南アジア史(ベトナム史))、李鍾國(東北亜歴史財団 日本政治外交)、李泰鎮(ソウル大 韓国史(政治・社会史))

日韓文化交流基金 賛助会員制度の御案内

日韓文化交流基金は1983年の創立以来、両国民間の相互理解と信頼を深めるため、青少年交流をはじめ数多くの事業を実施しております。

こうした活動のために、当基金では賛助会員制度を設け、趣旨に御賛同頂ける多くの方々の御支援を賜りながら、更なる事業活性化を図っていく所存でございます。

賛助会員の皆様には特典といたしまして、広報誌『日韓文化交流基金 NEWS』（季刊）及び、当基金が実施する講演会をはじめとする各種催しの参加案内をお送りいたします。また、日韓文化交流に関するニュースやお知らせなどを、メールマガジンでお届けいたします。

皆さまのご入会を心よりお待ちしております。

■頂いた会費は講演会や助成事業などに使われます。

会員の方々から頂いた会費は、当基金主催の講演会と学術定期行物に対する出版助成経費の一部に充当されています。該当事業につきましては年度毎に御報告いたします。

■入会のご案内

年会費

(1) 個人会員 1万円 (2) 特別会員 3万円 (3) 法人会員 5万円
1口以上何口でもご加入になれます。

会員期間は、会費の入金日から1年間です。

年会費のお支払方法

- (1) 郵便振替 □座番号 00160-9-668460
□座名称 公益財団法人 日韓文化交流基金
- (2) 銀行振込(新たな支払方法) ゆうちょ銀行 ○〇八支店(普通)
□座番号 8505617
名義 公益財団法人 日韓文化交流基金
フリガナ ザイニッカンブンカコウリュウキキン
※手数料は当基金で負担いたします

2016年度講演会

2016年 6月27日	「韓国における二つの欲望の行方」	鄭 大均 (首都大学東京名誉教授)
2016年11月28日	「あなたは本当に韓国を知っている!? 日韓の違いと近似性」	権 鎔大 (日韓交流祭り協会事務局長)

助成事業

『韓国朝鮮の文化と社会 第15号』『現代韓国朝鮮研究 第16号』の2点に助成いたしました。詳しくは本誌p11「日韓文化交流基金事業報告3学術定期行物助成」をご覧ください。



「韓国における二つの欲望の行方」(2016/6/27)講演後の懇談会風景。参加者からの質問に丁寧に回答くださる鄭大均講師。

●お振込みと合わせて、当基金ウェブサイトの賛助会員制度のページに賛助会員制度申込みフォームがありますので、そちらに必要事項を御記入ください。

お問い合わせ・資料のご請求

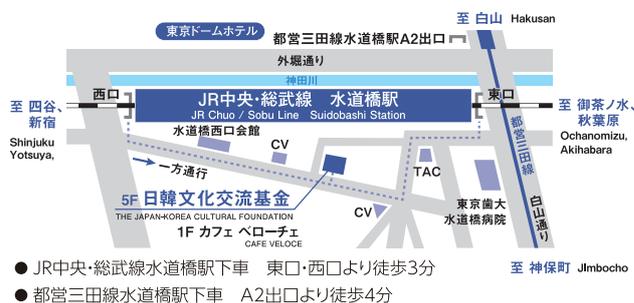
公益財団法人 日韓文化交流基金 賛助会員制度担当まで
Tel 03-6261-6790
E-mail membership@jkcf.or.jp
ウェブサイト <http://www.jkcf.or.jp>

事務所移転のお知らせ

当基金はこれまで長きにわたり執務して参りました港区虎ノ門から千代田区三崎町に事務所を移転し、3月1日より新事務所での業務を開始いたしました。

新事務所

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2丁目21-2
ユニゾ水道橋ビル5F(旧リーフスクエア水道橋ビル)
Tel 03-6261-6790 / Fax 03-6261-6780
(電話・FAXとも新しい番号へ変更となりました)



- JR中央・総武線水道橋駅下車 東口・西口より徒歩3分
- 都営三田線水道橋駅下車 A2出口より徒歩4分



表紙写真紹介

作品写真タイトル: 春の花「ゲンカイツツジ」(埼玉県花と緑の振興センターにて、撮影: 鬼海裕之)
日本国内で韓国の春にまつわるものを探しに出かけ、韓国で春を代表する花として、童謡「고향의 봄(故郷の春)」のでも歌われる「진달래(チンダラシ、和名: カラムラサキツツジ)」の変種である「ゲンカイツツジ」を見つけた。